

建設工事受注動態統計調査の誤報告対策に関する中間整理(概要)

1 正確な報告

<現状・課題>

- ① 調査票において、受注月にのみ受注高を記載すべきにもかかわらず、手持ち受注高を継続して報告
- ② 紙調査票では回答者自身が自ら誤りに気付きにくく、また現行のオンライン回答システムでもエラーチェックは不十分

<対応方針>

- ① 調査票および記入の手引きに、「当月の受注高のみを記載する」旨の注意書きを付して配布
- ② 令和7年度から独自のQRコードオンライン回答システムを運用開始し、過去月と同額の受注高が入力された場合等にアラートが出る機能を導入

対象項目名称	入力値	区分	内容	備考
施工都道府県番号	0	エラー	施工都道府県番号の入力に誤りがありました	該当箇所を修正し更新してください

2 誤りの発見

<現状・課題>

- ① 集計側でも誤報告を検知するための取組をさらに進めることが必要
- ② 担当者(外注業者を含む)が行う疑義照会の聞き取り内容によっては、誤りを検知できない可能性

<対応方針>

- ① 国土交通省の集計システムにおいても、過去月と同額の受注高が入力された場合等のチェック機能を整備
- ② 疑義照会の方法を具体化したマニュアルを整備し、疑義照会結果の記録を統一的に整備・保管すること等により審査内容を充実

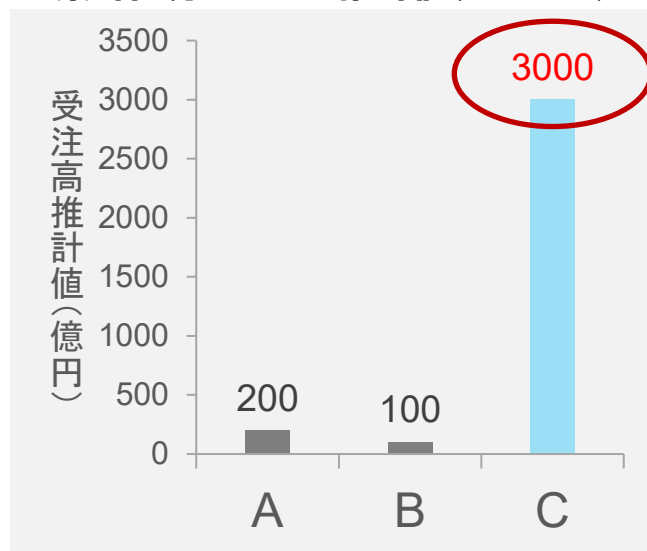
建設工事受注動態統計調査の誤報告対策に関する中間整理(概要)

3 安定的な推計

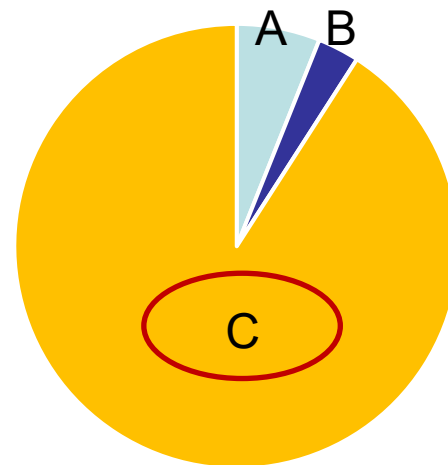
<現状>

- ・都道府県別・建設業許可の業種別・資本金別・完成工事高別にそれぞれ区分し、区分毎に回答業者を抽出・集計
- ・集計結果について、区分毎に抽出率の逆数を乗じて全建設業許可業者の受注高を推計
- ・特定の業者の影響が強すぎる場合、補正を行うかどうか検証する仕組みを検討する必要

集計区分における推計値(イメージ)



集計区分におけるシェア(イメージ)



<対応方針>

- ・不安定な推計値(ある集計区分で高いシェア等)となる場合、平均的な値となるよう補正を行い、さらなる精度向上、統計の安定化を図る。
- ・統計の根幹である集計区分のあり方等については、時代に即したものとなっているかという観点から、今後丁寧に検討する。